

教育ボランティアだより No.7

2011年6月28日 附属教育実践総合センター

◇ 6月22日に山梨英和中学校を訪問させていただきました。この日は、中学2・3年生が数学と英語の自主学習を行っていました。英和中学校では、放課後学習チューターとして、7名が教育ボランティア活動に取り組んでいます。担当の佐藤一生先生と、当日活動していた6名の学生を紹介します。



中学3年生の2次関数と英語の指導をしています

《音楽教育 2年 丸山 南 さん》

・中学生は自分が分からないことをなかなか言ってくれないなど、学校現場の実態がよく分かります。



《障害児教育 2年 石川 遥 さん》

・最近自分から生徒に声をかけることができました。分からないことがあっても声に出せない生徒への関わり方を学んで行きたいです。

《数理情報 2年 細見はるな さん》

・生徒に様々な解き方のパターンを教えていきたい。中学生と接する機会がなく、距離間がつかめなかったが、それが分かってきました。

《国語教育 4年 佐藤 瞳 さん》

・教育実習と比較して、個人差があることに気づきました。週1回1時間で、人間関係をつくるのが難しいですが、一人一人をしっかりと見られるようにしていきたいです。



佐藤一生先生のお話

【教育ボランティアについて】

- ・ 現高校1年生が中学2年生の時からチューターとして指導してもらっているが、指導を受けた生徒は成績が伸びたり、学習習慣が身についたり効果があった。
- ・ 生徒にしてみれば、年齢が近いということで、教師には聞きにくい質問も気軽に聞けるのでよいのではないかな。
- ・ 学生から大学の様子を聞き、大学生活に対するイメージが具体化し、進路に対する意識を高めてくれることも期待している。教師でない立場で接することに意味がある。
- ・ ボランティアということで強制ではないが、休まないで最後までしっかり活動してくれることを期待している。

【学生の様子】

- ・ 大学院生が中心となり他の学生の面倒を見てくれるのでスムーズに活動できている。
- ・ 昨年は生徒と馴れ合いになる面も見受けられたが、今年ははじめをつけてきちんと活動している。



《大学院 1年 鈴木梨紗 さん》

・教師として授業していた立場とは違う環境で、生徒との距離が縮まりました。生徒の状況がよく分かります。

《社会科教育 2年 堀美奈子 さん》

・教師が使う難しい言葉ではなく、自分の言葉で噛みくだいて分かりやすく教えていきたい。生徒との関係を気づくために、継続的に参加することが大事だと思います。